

# 平成 29 年度第 1 回 計画検討部会 議事概要

平成 29 年 6 月 19 日（月曜日）18 時 30 分～20 時 30 分まで  
札幌市役所本庁舎 8 階 1 号会議室

## 【出席者（50 音順）】

計画検討部会委員：◎浅香委員、伊藤委員、石橋委員、上田委員、北川委員、重泉委員、  
杉田委員、○永井委員、藤原委員、牧野委員、増田委員  
◎は部会長、○は部会長代理です。

事務局：山本障がい保健福祉部長、松原障がい福祉課長、中田企画調整担当課長、  
安田自立支援担当課長、加藤精神保健・医療福祉係長、福井発達障がい担当係長、  
樋口事業計画担当係長、石田就労・相談支援担当係長、鈴木個別支援主査  
名塚調整担当係長、堀井給付管理係長、宮野運営指導係長、竹本職員、高木

## 【議題 1 部会の公開・非公開】及び【議題 2 実態調査結果報告】

質疑なし

## 【議題 3 国における障害者基本計画（第 4 次）の検討状況と第 5 期障害福祉計画に係る基本指針について】

増田委員） 資料では「難病患者の方へ障害福祉サービスのことなどをもっとお知らせすること」とあるが、現時点において、市として何か取組案はあるのか。

札幌市） 現時点で新しい明確な取組があるわけでないが、周知が足りていないのではというご意見と受け止める。

重泉委員） プランのサービス見込量の積算においては、需要と供給のバランスが取れているのか、例えば、稼働している事業所数を把握するなどして根拠のある数字を示してほしい。

移動に関してもヘルパーが足りないという実情を踏まえて、根拠を明確にしてプランを作成すべきである。

杉田委員） 資料では、精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムとあり、後段には障がいの種類によらない福祉サービスとあるが、この「にも」の意図を知りたい。

札幌市） 介護の地域包括ケアシステムありきで、精神障がいにも対応した、という頭出しになっていると考えられる。精神に限定しているわけではなく、知的や身体にとっても、必要な社会資源はあるものと考えられる。

北川委員） 国からの情報だけでなく、札幌市として子どもの状況を把握し、課題を抽出して計画を作るべきである。

待機児童問題等、成果目標の有無に関わらず議論できたら良い。

永井委員) 精神障がいにも対応した地域包括ケアシステムについて、長期入院患者にかかる目標は都道府県が立てる、との説明があったが、道の計画との連携はあるのか。

また、現在の市プランでは、「入院中の精神障がい者の地域移行支援の利用者数」を独自の成果目標としているが、あまり機能していないように思う。これは継続するのか。

札幌市) 道の出してくる数字に対して、市としても連携はしなければならないと考える。ただ、どう対応するのか、また、現行プランで設定している目標の継続等についても御議論いただきたい。

石橋委員) 東京 2020 に向けた取組について、札幌市としてどう捉えているのか。

パラリンピックもあるため、アスリートのみならず、一般客も含めて考えていかなければならないと思う。

札幌市) オリ・パラ招致に向けて札幌市として何を取組むのかは、今後全庁的に検討していくものとする。ソフト面もあれば、バリアフリーといったハード面も考えられる。

牧野委員) 障害者差別解消法についても、心のバリアフリーと言ったら良いのか、市民の意識は高めていく必要がある。例えば JR は 17 時を過ぎたら乗降を拒否されるなど。

札幌市は雪の多い都市であるため、独特だと考える。冬季アジア大会もあったが、バリアフリー環境の観点で言えば、まだまだ足りないと言わざるを得ない。

藤井委員) 知的障がいに関しても、障害者差別解消法で足りない所はある。

特に、<sup>たいひと</sup>対人に関して、わかりやすい説明等、ソフト面の対応が大切であるため、団体として広めていかなければいけないと考えている。

増田委員) 子どもの難病には、ほとんど知的障がい絡んでくる。国は分けて議論をしようとするが、一緒に議論すべき問題である。

#### 【議題4 プラン検討スケジュール】

質疑なし

#### 【議題5 次期さっぽろ障がい者プランの全体骨子(案)等について】

永井委員) 計画骨子案の大枠については賛同する。計画名称については「障がい者基本計画」が国の計画と混同される恐れがあり、障害者基本法によると市町村計画は「障害者計画」となっているため、それでも良いのではないかと。

また、計画目標④に「市民・地域・事業者との・・・地域の福祉力の向上」と「地域」が2回出てくるが、意味合いが違うと思うので、他の言葉に置き換

えられたら良い。

計画目標⑤の「障がいのある子どもへの支援」と施策分野「障がいのある子どもへの支援」が同じ表現だが、施策分野の「障がいのある子どもへの支援」のためにどうするかをより掘り下げた分野名にすべきではないか。

情報アクセシビリティに関する文言はあるが、自立支援協議会の意見として、「移動支援」が大きな課題となっていることから、冬の移動についてもどこかで言及してほしい。

浅香委員) 横断的分野を作ることで、内容が抽象的になってしまう。かといって細かくすると詳細にはなるものの、あまり多すぎるのも考えもの。一長一短である。

重泉委員) 仮に旧分野⑩と⑪を統合したとして、行政サービスにおける配慮(特に選挙)は重要なことだと思っているが、文言自体消えてしまうのか。

札幌市) 具体的な中身をどうするかについては、今後、この検討部会の場で御議論いただくものと考えている。

石橋委員) 横断的分野については賛同する。移動については何らかの記載が必要。

重泉委員) 今後、サービス見込量等を話していくにあたっては、事業所の利用者数など、札幌市が持っている数字で十分であるが、数的根拠となる調査を依頼したい。

札幌市) 全てを調査するというのは時間的に厳しいと考えるが、提供できる数字はできる限り提供したい。

北川委員) 計画目標を立てるにあたっては、市の現状と課題が見えた方が良い。議論する上で、それぞれの立場で数字を持ち寄ることも、このメンバーであればできるのではないか。

また、障がいのある子どもへの支援において、子ども未来プランとの連携を図り、状況が見えた上でプランを策定すべき。障がいのみならず、他分野を見据えて計画を立てなければならない。

牧野委員) 計画目標①と⑥は内容が似ている気がする。分けたい理由を聞きたい。

⇒ 浅香委員) 計画目標①がポジティブな内容、計画目標⑥がネガティブな内容となるのではないか。

以上